

【協働の評価】

<p>協働で進めて いきたい理由</p>	<p>令和元年度に鎌倉、北鎌倉及び長谷地域のマップを作成したところ、車いす利用者を対象とした新たな観光マップとして一定の需要が見られ、車いすユーザーの目線でのマップの作成を見込めるため。</p>
<p>協働の 成果・効果</p>	<p>【協働の成果目標】 当事者の視点に立った正確な観光情報を提供できるマップの作成</p> <p>【達成できた点】 (NPO 側からの視点) 市との協働で行う事で、一事業者が活動して大船で宿泊された障がいを抱える方に幅広くマップを配ることができ、潜在的に必要なとされる方にも行き渡らすことができた。 (市からの視点) 民間のNPOと一緒にすることで、バリアフリーマップで最も必要な当事者の視点を入れることができ、飲食店等の民間施設を掲載することが出来た。</p> <p>【達成できなかった点】 計画の段階では視覚障がい者に配慮した内容を盛り込む予定であったが、時間と予算の関係上難しく、断念した。</p>
<p>相互評価</p> <p>※上手くいったこと 問題点・課題など</p>	<p>【事業実施前】 ★3 ○市 掲載内容の調査等、どのような取材を行っていくのか事前に調整し、より把握するようになりたい。</p> <p>○団体 市にお願いした方が良い調査内容や、関係機関への連絡などお互いの役割の明確化をもう少し緊密に連携できるようにしていきたい。</p> <p>【事業実施中】 ★4 ○市 市として紹介してほしいポイント等、掲載内容について調整を行った。</p> <p>○団体 神奈川大学や当事者との連携で調査を行っていく中で時間の調整がとても難しい中で、調査の漏れなどが出てきてしまい、後日調査を再依頼することなどが発生してしまった。効率的に調査を行えるように事前の調整や写真撮影の依頼などきちんとおこなえるようにしていきたい。</p> <p>【事業終了時】 ★5 ○市 掲載ポイントへの道の詳細等、より当事者の視点にたったマップに繋がられるように検討していきたい。</p> <p>○団体 ・30万円では収まらず、NPOが負担する金額が大きくなってしまふ。 ・調査を含めた当事者の意見の反映が偏ってしまう(障がいによってニーズが異なり、バリアフリーではないという意見も出てくる可能性がある)</p>
<p>今後の展望</p>	<p>当事者の意見をきちんと吸い上げ、現存している鎌倉バリアフリーマップも含めてブラッシュアップをし、精度の高いものにしていきたい。</p>